

1 弥生時代の3期区分

|     |      |  |
|-----|------|--|
| 500 | 弥生前期 | 九州北部でB.C.700年頃始まった水稲耕作が西日本に伝わり、やがて東北地方の一部まで伝わる(砂沢遺跡)。湿田が中心。木の鎌・鋤を使用<br>環濠集落出現(前~後期) (P.35) |
| 100 | 弥生中期 | 高地性集落出現(中~後期) 小国の分立(『漢書』地理志、[後漢書]東夷伝) (P.37)<br>墳丘墓出現(吉野ヶ里遺跡) (P.35)                       |
| 100 | 弥生後期 | 石器は減少し、鉄製工具普及 鉄製の刃の鎌・鋤を使用 乾田の開発 邪馬台国連合の形成(『魏志』倭人伝) (P.37)<br>大型の墳丘墓出現 (P.35)               |

2 弥生時代の区分



解説 縄文晩期に水稲耕作が開始されたが、縄文土器使用の晩期を縄文時代とするか弥生時代とするかについて意見が分かれている。現在は水稲耕作=弥生時代の説が有力で、3期区分または4期区分をしている。

2 弥生文化遺跡の分布

- 弥生前期遺跡
  - ▲ 弥生中期遺跡
  - 弥生後期遺跡
- (左記の3期区分による)

縄文文化(北海道) 農耕を行わず漁労や狩猟を中心とした文化。縄文土器を使用した。7世紀以降は縄文文化やオホーツク文化が成立したが、これも漁労や狩猟に基礎をおいた。●クマの装飾つき 鹿骨製スプーン 作の器ム起!

(4期区分は早期, 3期区分は前期)

**板付遺跡(福岡)**  
水田跡を発掘。環濠集落(福岡市) (P.29)  
\*縄文晩期の説がある。

**貝塚文化(沖縄を中心とする南西諸島)**  
農耕などの弥生文化が及ぼす、貝類などの食料採取が中心であった。貝塚の形成が著しい。

**沖縄 喜手納貝塚**  
高さ28cm

**加茂岩倉遺跡(鳥根)**  
山の中腹から銅鐻39個(国内最多)が出土(雲南市加茂町) (P.2-36)

**唐古・鏡遺跡(奈良)**  
吉野ヶ里遺跡に次ぐ大環濠集落。楼閣をうかがわせる土器が出土(由緒本町) (P.8)

**神庭荒神谷遺跡(鳥根)**  
銅剣358本、銅矛16本・銅鐻6個がまとめて出土(後川町) (P.2-36)

**池上曾根遺跡(大阪)**  
大環濠集落。大型高床建物跡と巨大井戸が出土(和泉市・泉大津市)

**砂沢遺跡(青森)**  
東日本最古・最北とされとして  
水田跡を発掘(弘前)

**垂柳遺跡(青森)**  
中期水田跡を発掘(田舎館)

**山木遺跡(静岡)**  
ねずみ返しのついた柱や大足などが出土(伊豆の国市)

**弥生町遺跡(東京)**  
1884(明治17)年、壺形土器が弥生町の向ヶ岡貝塚で発見され、弥生土器の由来となる 注)国史跡に指定(弥生二丁目遺跡)  
\*古墳時代の土器とみる意見がある。

**登呂遺跡(静岡)**  
住居跡・高床倉庫跡・畦・水田跡を発掘。多数の木製農具も出土(静岡市)  
1943(昭和18)年、遺跡発見  
1947~50年、発掘

**高床倉庫(復元)** 柱とはしこの頂部に板がつけられ、ねずみが入りにくくしてある。

吉野ヶ里遺跡 (佐賀県神埼市・神埼郡吉野ヶ里町) (P.8)

**復元された吉野ヶ里遺跡の全景** 規模は約40ha。

**外濠** 外濠はV字型に掘られ、深さは約3m、幅は最大約6.5mで西側部分だけで約1km続く。



●頭蓋骨のない人骨 環濠から出土した頭蓋骨のない人骨は、『魏志』倭人伝に「相攻伐すること歴年」とある戦闘を思わせる。



**北内郭の大型建物(復元)** 北内郭は二重の環濠に囲まれた特別な空間で、大型建物は吉野ヶ里遺跡の中核と考えられている。

高さ16.5m

解説 吉野ヶ里遺跡は、弥生時代の環濠集落遺跡である。濠に囲まれた住居跡、物見やぐら、高床倉庫、甕棺、墳丘墓等が多少の時代的差異を含むとはいえ、まとめて発見された点に大きな意義がある。



1 集落 A 環濠集落 弥生時代前期～後期

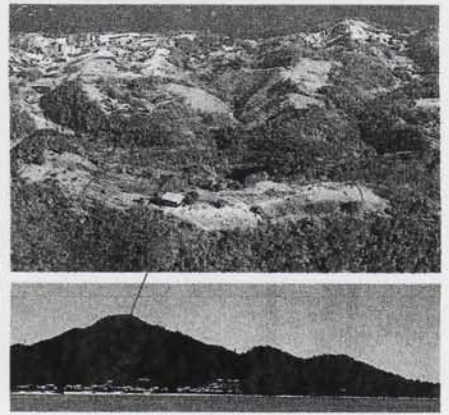


◎大塚遺跡(神奈川県横浜市) 弥生時代中期の遺跡群で、濠と土塁で集落(長径約200m、面積2.3ha)が囲まれていた(環濠集落)。南側にはこの集落の墓地とみられる 處勝土遺跡がある。  
\*25個以上の方形周溝墓群。



◎朝日遺跡の想像図(愛知県清須市など) 集落の外に環濠、その外側に逆茂木、さらに外側に斜めに打ち込まれた無数の尖った杭がある。\*先の尖った小枝のついた木を集めて溝に埋めたもの。

B 高地性集落 弥生時代中期～後期



解説 「魏志」倭人伝に「倭国乱れ」とあるように、弥生時代には耕地や生産物をめぐる戦いが発生した。環濠集落や高地性集落はこうした状況下で出現したとされる。勝った集落は負けた集落を統合し、小国に発展した。

| 環濠集落   | 高地性集落  |
|--|--|
| 周囲を濠や土塁で囲んだ集落。防御的な機能をもつ                            | 生活に不便な山上に位置する集落。逃げ城的な機能をもつものもある                  |
| 吉野ヶ里(佐賀)、唐古・鍵(奈良)、池上曾根(大阪)、板付(福岡)、大塚(神奈川)、朝日(愛知)など | 紫雲上山(香川)、会下山(兵庫)、古曾部・芝谷(大阪)など、瀬戸内海沿岸を中心とした西日本に分布 |

◎紫雲上山遺跡(香川県三豊市詫間町)と紫雲上山遺跡 瀬戸内海に面した標高352mの紫雲上山山頂にある弥生時代中期の高地性集落である。石鏃や石槌が大量に出土したことから、軍事的性格をもっていたことが想定できる。

2 墳墓と埋葬

A 土壙墓 佐賀 久里大牟田遺跡



◎土壙墓は、土を掘って棺を使用せずに遺体を埋める墓のことで、古今を通じて普遍的な埋葬方法。弥生時代にも主流を占めてみられた。弥生時代には手を伸ばして葬る伸展葬が主流で、屈葬が多い。副葬もみられる。

B 甕棺墓 福岡 藤崎遺跡



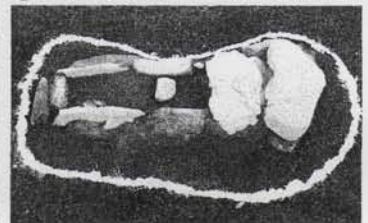
◎九州北部では成人に特製の大型甕棺を使用。盛り土はほとんどなく、甕棺は斜めに置かれ、屈葬が多い。副葬もみられる。

C 支石墓 長崎 里田原遺跡 縄文晩期(紀元前500年頃)のもの



◎大型の平たい石を数個の支石で支え、その下に土壙(墓穴)や、箱式石棺、甕棺などの埋葬施設がある。弥生前・中期の九州北部に多い。

D 箱式石棺墓 福岡 野方中原遺跡



◎板状または塊状の石で四方を囲み、遺体を入れる大きな箱形の空間をつくり、上を同様の石で覆ったもので、西日本に多い。

E 方形周溝墓 大阪 瓜生堂遺跡(弥生中期)



◎弥生前期から古墳時代まで続く墓。約10m四方で、周囲を1~2mの溝で囲む。盛り土された中央部に土壙(墓穴)を掘って埋葬した。東西10m、南北15m、高さ1.2m

F 墳丘墓 佐賀 吉野ヶ里遺跡 → P.32



◎弥生後期に西日本で大墳丘墓がつくられた。弥生時代の墳丘をもつ墓を、古墳と区別して墳丘墓とよぶ。東西約27m 南北約40m 高さ推定約4.5m

注)墓の縦・横にある溝は、試掘用の溝(トレンチ)である。

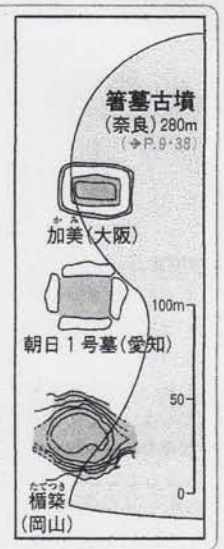
G 四隅突出型墳丘墓 鳥取 妻木輪田遺跡(洞ノ原地区東無丘陵)



◎斜面や裾の部分に石を並べ、四隅が突出した形の墳丘墓。鳥根・鳥取・広島などを中心に分布。墳丘斜面に貼石がある。6.4x5.3m 注)同端突出型の墳丘墓としては福築墳丘墓(岡山)。墳丘の直径約50m、全長約83mがある。右のコラム参照。

墳丘墓と前方後円墳

出現期の前方後円墳である奈良県の箸墓古墳(3世紀後半)は弥生時代の大規模な墳丘墓(王墓)と比べると、規模ははるかに大きい。これは前方後円墳(大王墓)の出現に先立ち、広範囲の政治連合が近畿地方に形成され、ヤマト政権が成立していたことを物語っている。



豆知識 高地性集落では最高地点で焼け土の跡が見つかることがある。この跡は、烽火をあげた跡であり、伝達の拠点だったとする説がある。